



## 阿蘇神社の御神輿

— 本社を出発 10月24日 —

報社

あそみや

平成16年11月1日  
第 36 号

発行所  
阿蘇神社社務所  
多良見町化屋名862  
☎ 0957-43-5235

## 神社と相撲

阿蘇神社

宮司 大島 大明

今年も恒例の奉納相撲大会が開催されました。準備から運営まで携わった関係各位に感謝申し上げます。

て、農作の豊凶を占うものでもあったとされます。

阿蘇神社の相撲の歴史は古く、江戸期の初めには行われていたの

神社と相撲の関係は深く、古事記には建御雷(たけみかずち)神と建御名方(たけみなかた)神の「力くらべ」や、日本書紀では野見宿禰(のみのおすくね)と当麻蹶速(た

ではと思われま。そのころの相撲は農作の豊凶を占うものから、祭礼時の娯楽としての意味合いが強くなっていったものと思いま。

いまのけはや)の相撲が記されています。昔は農耕儀礼の一つとし

も絶えることなく、受け継がれていくことを願っています。

### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかけて、向かふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、  
明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、  
神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいだきてむつび和らぎ、  
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

# 阿蘇神社の御神輿渡御!!

秋晴れの十月二十四日、阿蘇神社の御神輿の渡御が行われました。午前十一時、羽織袴の役員の先導のもと、阿蘇神社の社名旗・太鼓・五色旗を従え御神輿が氏子に担がれ神社を出発しました。

当日は多良見町ふるさと祭りが開催されており、御神輿の行列はふるさと祭りの会場を抜けて御旅所に到着しました。御旅所では樽酒が据えられ、参拝者に御神酒として振る舞われました。

午後三時、御旅所を出発し本社まで御神幸、御神体は御本殿にお遷し申し上げました。



— 責任役員は正装でお供 —

御神輿の渡御は阿蘇神社にとつて初めての初めてのことでした。御神輿が奉納された後、神社では氏子内の各種団体に呼びかけ、総代会を中心とした「阿蘇神社おくんち奉賛会」を設立して対応を協議してまいりました。

御神輿がなければ、当然のことながら行列に必要な用具・備品も新たに調達しなければなりませんし、御神輿を納める格納庫の建設、いつ御神輿を出すか、総代会では会議を重ねてまいりました。

★ ☆ ★ ☆ ☆

初めての御神輿の渡御であり、備品の調達も最小限度に留めることといたしました。必要な浄財の募金活動には、神社総代が手分けをして従事されましたが、どうか目標額をいただくことが出来ました。

募金に快く応じていただきました氏子各位に対し、衷心より厚くお礼を申し上げます。

また、御神輿担ぎ・旗持ちなどにご奉仕いただきました皆様方に慰労と感謝を申し上げます。



— 氏子中を御神幸 —

## 阿蘇神社くんち(御神幸)日程

御神輿を出すということは、大祭式のお祭りであり、一日でいくつもの祭典が行われます。当日の様子を列記してみました。

### 十月二十四日(日曜日)

◎午前九時半 関係者集合

— 更衣をして祭典の準備 —

◎午前十時 遷輿式

— 神様を御神輿にお遷しするお祭りです —

◎引き続き 本殿発御祭

— 本社を出発するお祭り —

◎午前十一時 本社発御

— 第一鳥居をくぐり本社を出発。喜々津商店街を通過して役場前へ。ふるさと祭りの

会場を廻って御旅所へ —

◎正午 御旅所着

◎引き続き 御旅所着御祭

— 御旅所に到着したことを報告するお祭り —

★御旅所では樽酒を据え、御神酒として参拝者に振る舞いました。

◎午後三時 御旅所発御祭

— 御旅所から本社に帰ることを告げるお祭り —

◎引き続き 御旅所発御

— 御旅所を出発し、町民センター先の交差点を右折し、第一鳥居をくぐり、本社に還りました —

◎午後三時半 本社着

◎引き続き 本社還御祭

— 本社に帰り着いたお祭りです、



— 御旅所に据えられた御神輿 —



— 子供たちも旗持ちとして参加 —

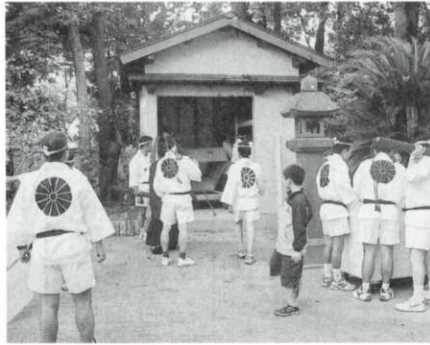
神様を御神輿から御本殿にお遷しいたしますー  
◎引き続き 御神輿他格納

ー 祭典終了後、宮司・総代会長より挨拶。その後全員で手締めを行い、全日程を終了しました。

御神輿を「神輿庫」に格納、社名旗他備品も併せて格納しましたー

◎午後五時 直会(なおりい)

★ ☆ ☆ ★  
御神輿に神様を遷して氏子中を巡ることを御神幸と書いて、「おみゆき」または「ごしんこう」と読みます。御神輿は神社に縁の深い例大祭の日に併せて出されることが多く、一般に「(お)くんち」と云われています。しかし、例大



— 神輿庫に御神輿を格納 —

祭を行った後、日を改めて御神輿を出す神社もあり、この場合は御神輿を出す日を「(お)くんち」と云っているようです。

なお、御神輿を格納するために本殿西側に、新たに神輿庫が建設されました。この御神輿は左記の皆様方により奉納されたものです。ご厚志に衷心より厚くお礼を申し上げます。

一、整地・基礎工事一式奉納  
(株)森 開 発 殿  
一、本体工事奉納

- (有)多良見 砕石 殿
- (有)溝 上 建 装 殿
- (有)森 商 会 殿
- (有)北 島 商 事 殿
- (有)雄 苑 殿
- (有)木 下 建 築 殿

平成十六年度

# 阿蘇神社例大祭を斉行!!

去る十月十五日、阿蘇神社の例大祭が斎行されました。

例大祭(例祭)は神社が熊本の阿蘇神社より御神体を勧請し、喜々津の鎮守として祀られた記念すべき日であり、一般の会社等の創立記念日と同様です。因みに今年には御鎮座四十七年となります。

当日は午前十一時、宮司以下祭員が参進、御本殿の御扉を開き、神饌とともに神社本庁よりの幣帛料も神前に供えられました。

宮司が御神徳の感謝と更なる御加護の祈願を籠めた祝詞を奏上、巫女の神楽舞の奉納の後、宮司以下参列者の代表が玉串を捧げ拝礼をいたしました。

祭典終了後、御神輿を奉納された上原国雄氏に感謝状が贈呈されました。引き続き場所を社務所に移して直会を催しました。

例大祭に際し左記の通りご献納を賜りました。ご芳名を記しお礼を申し上げます。

《順不同・敬称略》



— 感謝状の贈呈 —

☆初穂料☆

- かこい組(株)池田忠憲、(有)森商会森誠司、山口隆好、小川虎彦、向井徳磨、溝上住雄、JAことのみ喜々津支所長草野榮、浦田辰男、石丸隆男、多良見町長、山田豊明、吉野徹、峯達也、犬塚実、誠会会長相良信義、宮嶋泉、森伸一郎、古賀春生、本島光行、山中季男、前田信太郎、松尾清人、山口安博

☆献 酒☆

- 十八銀行多良見町支店長藤田好宣
- 親和銀行多良見支店長坂井賢太郎

以上

# 七五三詣は阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女兒七才を『帯解』または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。ご家族お揃いでご参拝下さい。



女	七歳	平成十年生
男	五歳	平成十二年生
男女	三歳	平成十四年生
男女	三歳	平成十四年生
平成十六年の七五三祝 数え年		

◆十一月十三日(土曜日)、十四日(日曜日)、十五日(月曜日)は終日七五三の祈願を受け付けます。これ以外の日にご参拝予定の方には、出張祭典などで留守をすることもございますので、お手数ながら事前に連絡をお願いいたします。

### 総代会便り

十月十五日附で神社総代会が左記の通り交替されました。

#### ◆退任

化屋名 木下 保 氏

#### ◆新任

化屋名 松尾 清人 氏

#### ◆奉納御礼

一、神輿庫(神輿格納庫) 一棟

氏子内 篤志家一同殿

一、社名旗 一式

慈恵病院・恵風園 殿

一、賽銭箱

松本 淳 殿  
松本 卓郎 殿

### ◆◆◆編集後記◆◆◆

近年ジェンダーフリー教育という言葉をよく見聞します。神主が結婚式の後で「子々孫々へ生命の継承を・・・」などと云うことは出産を押しつけるので間違いらしい▼また大和撫子・良妻賢母という言葉は性の抑圧につながるという▼家庭での母性・父性も否定するというジェンダーフリー思想。次代を担う子供たちを、魔の思想から守っていかねばと考える今日この頃です。